

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

- ・研究課題名： 口腔癌の予後因子の検討とリスク層別化
- ・目的： 口腔癌の予後因子として、原発巣の大きさとリンパ節転移様式が重要となります。American Joint committee on Cancer(AJCC)による第7版病期分類では、原発巣のサイズと転移性リンパ節の単発性・サイズ、健側への転移の有無によって分類されています。2018年に第8版病期分類が提唱され、原発巣の深達度と転移性リンパ節の節外浸潤の有無が項目として追加されました。追加された項目は重要な予後因子ですが、臨床において、深達度や節外浸潤の有無に関わらず、予後が悪い症例を経験しています。近年、頭頸部扁平上皮癌の全生存期間に対して、転移性リンパ節の個数が独立した予後因子である報告がされています。また、転移性リンパ節の節外浸潤があっても単発性なら予後に寄与しないとの報告もあります。深達度の基準やリンパ節転移の転移様式に対してはいまだ論争となっています。当研究では、当院の既治療症例を解析し、第7版と第8版の病期分類から予後因子の検討を行い、より有効な予後因子を確立することを目標としています。
- ・研究期間：承認日 ~ 2026年3月31日
- ・研究対象：2007年4月1日～2021年12月31日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

：電子カルテから、年齢、性別、喫煙・飲酒などの生活歴、既往歴、家族歴、治療前後評価（病理組織型(SCC等)、TNM分類(AJCC)）、手術因子（切除範囲、術式、再建方法）、病理学的因子（原発巣(病理組織型、断端、深さ(DOI)、脈管・神経浸潤)、リンパ節（転移部位、個数、節外浸潤の有無）、後治療内容、有害事象、予後、予後因子と関わるものを調査します。

利用する者の範囲

：埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 榎木 祐一郎

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 榎木 祐一郎